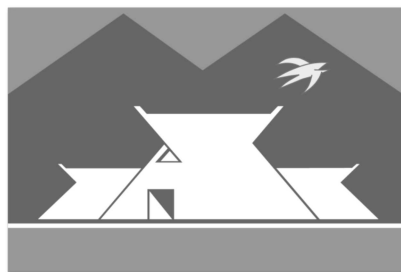


※この資料はコロナウィルス感染症防止のため中止となった
遺跡発掘速報会の配付資料です。

令和3年度 宮崎県埋蔵文化財センター
遺跡発掘速報会 配付資料

資料内容

- ① はなのきいけんびら 花木池平遺跡（都城市）
- ② うえんでら 上平遺跡（都城市）
- ③ やまじょうしろあと 山城城跡（西都市）
- ④ くしき 串木遺跡（西都市）
- ⑤ せいなんせんそう 西南戦争関連遺跡（県内各地）



宮崎県埋蔵文化財センター旗
当センターは宮崎県教育委員会に所属する組織です。

遺跡発掘成果展2021

「再発見！1990年代調査の遺跡」開催中！

9月5日(日)まで 県立図書館2階 特別展示室にて

はなのきいけんびらいせき

花木池平遺跡

所在地 都城市山之口町花木

調査期間 【一次調査】令和2年1月14日～令和2年3月27日

【二次調査】令和2年4月15日～令和2年8月21日

調査面積 6,200 m²

調査原因 県有体育施設整備事業（調整池）建設工事に伴う発掘調査

花木池平遺跡は、河岸段丘上の東側緩斜面の下に位置しています。調査の結果、縄文時代後期から近世にかけての遺跡であることがわかりました。遺構は、古墳時代中期～後期の竪穴住居跡、古代の遺構、近世の水田跡、重なった縄文時代と古墳時代の流路などが見つかりました。幅1mほどの縄文時代の流路からは、縄文土器、磨製石斧、流路のすぐ東側から翡翠製の勾玉が出土しました。流路は、縄文時代では自然の流路でしたが、時を経て、古墳時代の人々が同じ場所を掘り下げ、新たな流路をつくっていたことが確認できました。この流路内からは、古墳時代の土器と炭が大量に集中して見つかりました。発見された竪穴住居跡に住んでいた人々が、祭祀を行っていたと考えられます。

時代	主な遺構	主な遺物
縄文時代 後期～晩期 (約 3000～3500 年前)	自然流路 1 条	縄文土器（貝殻条痕文） 勾玉 石鏃 石斧 敲石 磨石 尖頭器
古墳時代 中期～後期 (約 1500 年前)	竪穴住居跡 6 軒 溝状遺構 2 条	須恵器 土師器（甕・壺） 台石
古代（奈良・平安時代） (1200 年前)	掘立柱建物跡 1 軒 畝状遺構 溝状遺構 3 条	陶磁器（青磁・白磁・緑釉陶器） 須恵器 土師器
近世（江戸時代） (約 300 年前)	水田遺構	陶磁器



【古墳時代の竪穴住居跡】



【溝状遺構（流路）】

うえんでらい せ き

上平遺跡

所在地 都城市山之口町山之口3391-7ほか

調査期間 【一次調査】令和2年3月 4日～令和2年 3月27日

【二次調査】令和2年5月18日～令和2年12月23日

調査面積 6,000m²

調査原因 県有体育施設整備事業（陸上競技場）建設工事に伴う発掘調査

上平遺跡は、都城盆地の北東部に位置し、東岳^{ひがしだけ}の麓にある河岸段丘^{かがんだんきゅうじょう}上の北東緩斜面^{かんしゃめん}に立地します。調査の結果、縄文時代早期及び後期、古墳時代後期の遺構や遺物が確認されました。

縄文時代早期については、約8,000年前と約9,000年前の2つの文化層を確認し、集石遺構^{しゅうせきいこう}や炉穴^{ろあな}、陷し穴^{おと}などが見つかりました。また、条痕文系^{じょうこんもん}や押型文系^{おしがたもん}の縄文土器のほか、石鏃^{せきそく}や石斧^{せきふ}、磨石^{すりいし}などの石器類も数多く出土しました。特に、黒曜石^{こくようせき}製の石鏃^{はくへん}や剥片^{はくへん}が多数出土し、石核^{せきかく}や原石などの出土も多いことから、上平遺跡が周辺の縄文集落の中で石材流通のための中心的な役割を果たした可能性があると考えられます。

古墳時代後期については、土壇墓^{どこうぼ}と地下式横穴墓^{ちかしきよこあなぼ}が見つかり、そこから鉄剣^{てつけん}や鉄刀^{てつとう}、刀子^{とうす}、鉄鏃^{てつそく}が出土しました。山之口町の発掘調査で地下式横穴墓が確認されたのは初めてのことであり、都城盆地の歴史の一端が明らかになりました。

【主な遺構】

縄文時代早期：集石遺構^{しゅうせきいこう}101基 平地式建物跡^{へいちしきたてものあと}5軒 炉穴^{ろあな}4基 陷し穴^{おと}8基

縄文時代後期：竪穴住居跡^{たてあなじゅうきょあと}1軒

古墳時代後期：土壇墓^{どこうぼ}1基 地下式横穴墓^{ちかしきよこあなぼ}1基

【主な遺物】

縄文時代早期～後期

縄文土器（前平式土器^{まえびら} 石坂式土器^{いしがか} 手向山式土器^{たむけやま} 丸尾式土器など^{まるお}）
石器（石鏃^{せきそく} 石斧^{せきふ} 石匙^{いしざし} 磨石^{すりいし} 台石など^{だいし}）



【集石遺構群】



【地下式横穴墓】

やまじょうしろあと 山城城跡

所在地 西都市大字穂北

調査期間 令和2年8月17日～令和3年1月12日

調査面積 360m²

調査原因 県道杉安高鍋線（山城工区）道路新設改良事業

山城城跡は、一ツ瀬川^{ひとつせ}に向かい南に延びる舌状^{ぜつじょう}の丘陵^{きゅうりょう}上、標高約 36mに立地し、中世山城跡の曲輪^{くるわ}の一部にあたります。曲輪の先端部^{さきぶ}には、土塁^{どるい}や堀^{ほり}などが現在でも残っています。

調査の結果、ピット（柱穴）群の広がりや溝状遺構^{みぞじょういこう}などが確認され、下層から縄文時代早期の集石遺構^{おしかたもん}5基が押型文土器や石器とともに出土しました。ピット群の中で、掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}跡らしきものは認められませんでした。柵列^{さくれつ}などの一部となるのか今後の検討が必要となります。ピットの埋土中からは黒色土器や土師器^{はじき}が出土しています。

中世山城の曲輪の東端にあたる箇所^{かしょ}の調査も行い、谷に向かって下がっていく地形の傾斜を確認したものの、城跡に伴う施設等は確認できませんでした。

【主な遺構】

縄文時代早期：集石遺構 5 基 古代～中世：溝状遺構 1 条、ピット群

近世以降：溝状遺構 2 条

【主な遺物】

縄文時代早期：縄文土器（楕円・山形押型文）、石鏃^{せきぞく}、石斧^{せきふ}、磨石^{すりいし}、敲石^{たたきいし}、剥片^{はくへん}

古代～中世：土師器



【山城城跡 遠景】



【溝状遺構】

く し き い せ き

串木遺跡（第3・4地点）

所在地 西都市大字穂北

調査期間 令和2年9月25日～令和3年1月12日

調査面積 460㎡（第3地点210㎡、第4地点250㎡）

調査原因 県道杉安高鍋線（山城工区）歩道整備事業、道路新設改良事業

串木遺跡は、西都市街地の北西4km、九州山地を水源とする一ツ瀬川左岸の標高約35mの台地上に位置しています。

調査の結果、縄文時代の土坑^{どこう}1基、集石遺構^{しゅうせきいこう}8基、古墳時代の竪穴住居跡^{たてあなじゅうきょあと}6軒、土坑1基、古代の土壇墓^{どこうぼ}1基、ピット（小穴）群^{みぞじょういこう}や溝状遺構などが見つかりました。

縄文時代の土坑からは、黒川式土器の深鉢片^{くろかわ ふかばち}が出土しました。古墳時代中期の竪穴住居跡は、確認された6軒のうち3軒の住居跡は重なった状態でした。遺物は、住居の埋土中から土師器の甕・壺・高坏、須恵器の坏や甗^{はしき かめ つぼ たかつき すえき つき はそう}、石器等が出土しました。出土した須恵器の形から5世紀後半頃の住居跡と考えられます。また、古代の土壇墓内からは土師器の坏や壺、黒色土器の埴^{わん}が数個体分、刀子^{とうす}1点が出土しました。

【主な遺構】

縄文時代早期：集石遺構8基、土坑1基 古墳時代：竪穴住居跡6軒

古代：土壇墓1基、ピット群

【主な遺物】

縄文時代早期：縄文土器（押型文土器^{おしがたもん}）、石鏃^{せきぞく}、石斧^{せきふ}、磨石^{すりいし}、敲石^{たたきいし}、剥片^{はくへん}

縄文時代晚期：縄文土器（黒色磨研土器^{まけん}）（深鉢^{せきすい}、浅鉢^{せんすい}）、石錘^{せきすい}

古墳時代：土師器（甕、壺、高坏、埴^{わん}）、須恵器（坏、高坏、甗^{はそう}）、石錘^{せきすい}

古代～中世：土師器（壺、坏、埴^{わん}）、刀子



【集石遺構】



【土壇墓】

「近代宮崎を知る・つなぐ

～西南戦争関連遺跡総合調査～」

西南戦争は、明治 10 年（1877 年）に現在の熊本県・宮崎県・大分県・鹿児島県を舞台に西郷隆盛を中心とした士族が起こした国内最後で最大規模の内戦です。この戦争により、明治政府が近代国家として権力を確立する等、重要な意義を持つほか、宮崎県の再配置（明治 16 年、1883 年）にも大きな影響を与えています。

宮崎県でも薩軍と官軍（政府軍）の激しい戦闘が繰り広げられ、各地に台場（塹壕や堡壘など敵の攻撃から身を守るために土等で造られた陣地）や主要人物の宿泊施設、墓地等といった遺跡や建物が数多く残されています。一方で未把握のものも数多く存在している可能性があり、関連遺跡の全体的な評価を行うためには、これらの把握が必要不可欠となっています。

こうしたことから、令和 2 年度より3カ年の計画で「近代宮崎を知る・つなぐ～西南戦争関連遺跡総合調査～」事業に取り組んでいます。

この事業では、西南戦争に係わる文献調査や伝承等の聞き取りを基に踏査等で確認した遺跡のデータ取得（GPSによる位置情報や写真撮影、測量等）を行い、情報発信していきます。

昨年度の調査では、市町村教育委員会や地元の方の協力を得て、山々の山頂や尾根筋を踏査し、301 基の台場（大分県 10 基を含む）と7墓地 361 基のデータを蓄積しました。また、台場の周辺では、戦争で使用された銃弾や薬莖（弾を発射する火薬を詰めた容器）などの遺物もみつかります。

山々には人知れず眠っている台場がまだまだ存在している可能性があります。今後も引き続き調査を実施して、遺跡の把握に努めていきたいと考えていますので、皆様からの情報提供をお待ちしております。



【余瀬台場群 2 号（東より）：日向市】



【鳥川台場群 1 号出土遺物（銃弾）：日向市】